

3分でわかる井上円了

◇◇◇ 校友会創立 115 周年記念企画 ◇◇◇
 哲学者・教育家・啓蒙家…
 理想を追いつけた情熱の人 東洋大学の創立者
井上円了の生涯をたどる

第3回海外視察

1911（明治44）年4月、3回目の長期の海外視察に出発。南米移民事情視察のため、翌年1月まで南半球および欧州を巡り『南半球五万哩』を著す。



明治の人気挿絵画家 徳永柳州筆
 （『萬朝報』1901年11月16日）

中国・大連で逝去

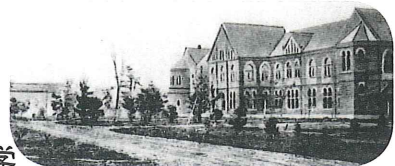
巡講に明け暮れるなか、1919（大正8）年6月、中国・大連での講演中に脳溢血で倒れ逝去。駆け続けた生涯を終える。享年61歳。

新潟に生まれる

1858（安政5）年2月4日、越後国長岡藩（現・新潟県長岡市）の真宗大谷派慈光寺に父円悟、母イクの長男として誕生。

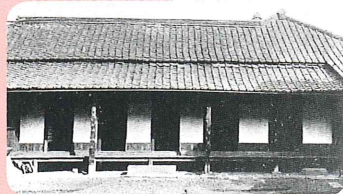
1881 東京大学に入学

1878（明治11）年9月、東本願寺の国内留学生として創設間もない東京大学予備門に入学。1881年9月、東京大学文学部哲学科に進学、哲学を学ぶ。哲学科の1年級は、井上円了ただひとり。



哲学館を創設

1885（明治18）年7月、27歳で東京大学を卒業。卒業2年後の1887（明治20）年9月、帝国大学文科大学の速成教育を内容とする「哲学専修の一館」として哲学館を創設。29歳。



哲学館発祥の地 麟祥院

哲学の普及

井上円了は東京大学卒業後、哲学の研究・普及のため精力的な著述活動を展開、『哲学一夕話』『哲学要領』などを出版し、哲学館を創設した。



『一覧博識番附百種』（1897年・集文館刊）井上円了、哲学部門の三傑に。

哲学堂公園



四聖堂



宇宙館



六賢台



哲理門

東洋大学校友会創立 1894年

全国巡講



山口県



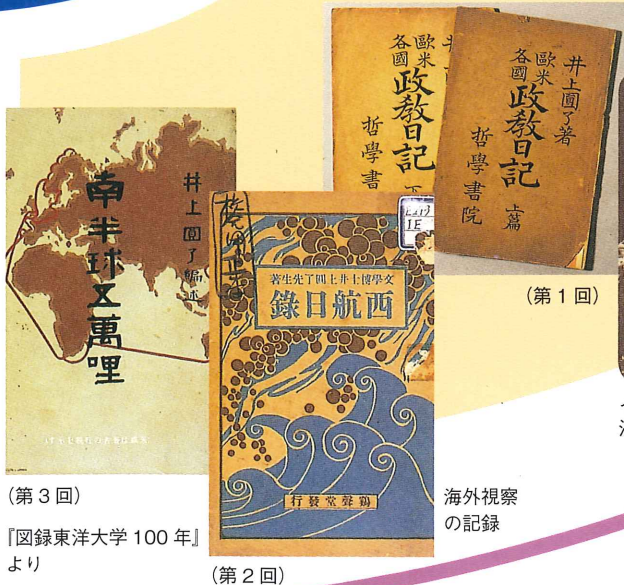
秋田県



広島県

『図録東洋大学 100 年』より

海外視察



（第3回）『図録東洋大学 100 年』より

（第2回）

（第1回）

海外視察の記録



米国からの絵葉書（第2回）



インドのカルカッタで河川慧海と（第2回）

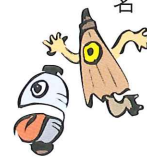
1888 第1回海外視察

1888（明治21）年6月からほぼ1カ年にわたり欧米を中心に視察。帰国後、日本主義の大学設立を哲学館の将来の目的とする。その見聞を『欧米各国政教日記』と題して刊行。1890年11月より哲学館専門科開設趣旨の普及と資金募集のため、全国巡講を開始。



1893 妖怪研究会を設立

1893（明治26）年11月、国民の迷信打破を目的に妖怪研究会を設立し『妖怪学講義』を発行。研究対象のユニークさにより、一名「妖怪博士」と呼ばれる。



全国巡講を開始

学長退隠後の1906（明治39）年4月から社会教育活動に専念。国民道徳の普及・向上を目的とした啓蒙運動・修身教会運動の一環として精力的な全国巡講を開始。

1906 哲学館大学学長を退隠

1906（明治39）年1月、主に健康上の理由から哲学館大学学長を辞職。哲学堂の地を「隠居所」として、大学から買い取り、堂主としてその経営を引き継ぐ。

哲学堂を創設

1904（明治37）年4月、現在の東京都中野区立哲学堂公園に釈迦・孔子・ソクラテス・カントの「四聖」を祀る哲学堂を建立。以後、修養公園として整備・拡張。

1904 哲学館大学初代学長に就任

1903（明治36）年10月、一私立学校であった哲学館は、「専門学校令」による設立を認可され、「哲学館大学」と改称。1904年4月、哲学館大学を開校、初代学長に就任（1906年6月、東洋大学と改称）。

哲学館事件起こる

1902（明治35）年12月、哲学館に与えられていた中等教員無試験検定の許可学校としての認可が文部省により取り消され、マスコミを巻き込む一大社会事件となる。

1902 第2回海外視察

1902（明治35）年11月、哲学館を拡張して大学組織とするためインド・欧米に出発。翌年7月まで各国の教育事情を視察。帰国後、『西航日録』を出版。